

富山空港特定運営事業等

審査講評

令和7年9月19日

富山空港優先交渉権者選定に係る

審査委員会

1 総評

富山空港特定運営事業等は、富山空港の本来の役割を最大限発揮させ、空港の利用促進や魅力向上による空港及びその周辺、本県の地域全体の活性化を図るため、富山空港における県が運営する空港基本施設等及び駐車場施設等、航空旅客及び航空貨物取扱施設事業者が運営する航空旅客取扱施設及びこれに附帯する利便施設並びに航空貨物取扱施設及びこれに附帯する利便施設の運営を一体化し、航空輸送の安全性や空港の公共性を確保しつつ、富山空港の機能向上、サービス拡充に取り組む事業である。取組みの実施にあたっては、独立採算型ではなく混合型コンセッションとし、行政の信用や民間の創意工夫など、県と運営権者のそれぞれの強みを活かし、官民連携による相乗効果により地域経済の発展を目指すことを目的としている。

また、空港経営に大きな影響を与えた新型コロナウイルス感染症の5類移行後、空港における公共施設等運営権制度を活用し優先交渉権者の選定に至った全国初の事例である。

富山空港優先交渉権者選定に係る審査委員会は、優先交渉権者等の選定にあたり、民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（平成11年法律第117号）第11条に規定する客観的な評価を行うことを目的として設置されたものである。

優先交渉権者の選定は、参加資格要件の充足や提案審査に向けた実施体制を提出し、提案審査参加者を特定する「資格審査」と、提案審査参加者との競争的対話を踏まえ、具体的な事業施策、事業計画等を審査する「提案審査」の二段階に分けて実施した。資格審査では、県が、資格審査書類の確認を行った上で、提案審査参加者を特定した。提案審査では、富山空港特定運営事業等優先交渉権者選定基準に基づく提案審査書類に加え、プレゼンテーション等による提案内容の確認を踏まえ、審査を行った。なお、提案審査書類に係る応募者の名称を伏して審査した。

各応募者の提案は、いずれも、民間の創意工夫を活かした運営の効率化や利用者の利便性の向上、富山空港及び地域の活性化等に向けた積極的かつ個性的な取組みが盛り込まれており、両応募者とも優れた運営能力を有していることが見てとれた。また、限られた期間の中で提案をまとめた両応募者の提案力を高く評価するとともに、その熱意に多大なる敬意を払いたい。

本事業の遂行にあたっては、県とのパートナーシップ体制をはじめ、県内外の関係者と緊密かつ持続的な連携・協力関係を構築することが肝要である。本事業を通じて、富山と全国、世界各地を結ぶ空の玄関口としての富山空港のポテンシャルを活かし、県が掲げる「幸せ人口1000万〜ウェルビーイング先進地域、富山〜」の実現に向け、内外交流人口拡大等による富山空港及び地域の活性化が図られることを大いに期待したい。

また、人口減少や近隣他空港との競争等、富山空港を取り巻く環境は依然厳しいことから、運営権者が掲げる富山空港の将来像の実現に向けた取組方針を遵守しつつ、事業環境の変化に柔軟に対応し、提案内容にとどまらないきめ細やかな誠意ある施策が講じられることにも期待する。

2 提案審査における審査の内容

各提案項目の審査の内容は、以下のとおりである。

提案項目	審査の内容
A) 全体事業方針	
【A1】 将来イメージ及び戦略的事業方針	【審査のポイント】 ・ 応募者が描く 10 年後の富山空港の将来イメージは県の本事業のゴールを達成するものとなっているか、富山空港を運営するにあたっての全体的な戦略が示されているか、本事業のゴールを見据え、県と事業者がどのように連携して本事業に取り組む方針であるかが明確に示されているか、各提案項目で実施する需要動向及び事業環境の分析や各指標の目標値等と整合した事業期間全体を通じた具体的かつ説得力のある事業方針を提示できているか、をポイントとして審査した。 【審査の概要】 ・ 富山県が目指す本事業のゴールと合致しており、官民連携による県・地域への貢献の考え方のもと、実績を踏まえた安定した事業方針に説得力があり、SPC が地域プラットフォームとなることで企業や団体を巻き込んだ取組みの推進が期待できる提案を高く評価した。また、富山県の政策への理解が十分であり、富山空港の強みや課題が適切に分析された点を高く評価した。 ・ 全体的な事業方針と戦略的事業方針、各提案項目の内容との関係性が明確になっている点については評価に値するが、富山県が目指す本事業のゴールを踏まえると、空港そのものの活性化に留まらない空港周辺地域や地域全体の活性化の視点が不足しているとの意見があった。
B) 優先交渉権者が提案する事業・業務	
【B1】 利用者数の増加に関する事業・業務	【審査のポイント】 ・ 取組方針が明確で、それを具現する個別取組施策が具体的かつ体系的となっているか、また、それぞれの施策同士の相乗効果を期待できる提案となっているか、本空港の特性や強み、ポテンシャルを踏まえた提案となっているか、空港及びターミナルビルの活性化による利用者数の増加に寄与する効果的な提案となっているか、航空ネットワークの充実を図るための具体的な戦略及び施策が示されているか、料金は、利用者負担に配慮した提案となっているか、根拠が明確で、具体性があり、民間の創意工夫を活かした提案となっているか、をポイントとして審査した。

	【審査の概要】 ・ 取組方針が明確で地域に根ざして取り組む考え方が根底にあり、県や地域の事業者と連携した施策が期待できる「空港型地方創生」の考えに基づく提案を高く評価した。 ・ 一方で、富山県の特性や課題に対する分析が必ずしも十分とは言えず、富山空港に特化した取組実施への期待や、提案内容が顕著な空港の成長に直ちに寄与するとは考えにくい等の意見があった。 ・ 空港の活性化に向けて、旅客数の増加に積極的に取り組む提案は評価に値する一方で、提案施策について目標値の達成に向けたノウハウが十分に備わっていないのではないかと意見があった。一方で、北陸新幹線との競合・共存や事業準備中の航空会社の就航の蓋然性など、現状を十分分析したうえでの需要予測を行い、複数空港の運営による相互送客などの相乗効果が期待できる提案を高く評価した。 ・ また、既存の国内路線について新幹線との競合を認識した上で、観光とビジネス双方で差別化が必要であるとの課題認識を有している提案を高く評価した。一方で、提案された施策に具体性がないとの意見があった。 ・ エアラインの誘致等について、様々なリレーションを有している一方で、新規路線開拓の戦略・施策について具体性がなく、SPC 自らがリーダーシップを取り、主導的に航空ネットワークの充実や利用者の増加を目指す観点では、提案内容が不足しているとの意見があった。 ・ 空港の利用者の利便性向上については、多面的に検討され、それらの達成手段が具体的に記載されている点を高く評価した。空港の活性化のためには、非旅客の増加もポイントである中、商業収入やその他賃料等の大幅な増加が計画されている提案については、そのための施策が目標の実現に向けて蓋然性の高いものであるのか疑問が残るとの意見があった。 ・ 着陸料等の料金施策については、実際の運営時においては富山空港のポテンシャルを活かして工夫を凝らしてもらいたいとの意見があった。
【B2】他団体・企業と連携した地域経済活性化に関する事業・業務	【審査のポイント】 ・ 取組方針が明確で、それを具現する個別取組施策が具体的かつ体系的となっているか、また、それぞれの施策同士の相乗効果を期待できる提案となっているか、本空港周辺や本県の地域特性を踏まえた提案となっているか、県内外の各種団体・企業との効果的な連携が示されているか、人や投資を呼び込む等、空港を拠点とした地域経済活性化に

	寄与する効果的な提案となっているか、根拠が明確で、具体性があり、民間の創意工夫を活かした提案となっているか、をポイントとして審査した。 【審査の概要】 ・ 取組方針と地域経済活性化の関係性が明確で、地域に根ざして取り組む考え方が根底にあり、事業者のネットワークを活かした学習・体験等のオリジナルツアーによるリピーターの獲得など、需要創出に強みがあり、人や投資を呼び込む施策が期待できる提案を高く評価した。 ・ また、富山県の観光ビジネスや地域交通の現状を冷静に分析し、地域の観光資源、その資源を活かした地域のキープレイヤーとの結節点を作り、自ら積極的な営業活動をして地域活性化を自分事として本事業に継続的にコミットしたうえで取り組む点を高く評価した。 ・ 一方、施策同士のつながりが体系的かどうか、相乗効果や施策の効果をどのように測るのか等についてはやや不明確であった、空港の特性等を踏まえた具体的な提案をしてもらいたかった、等の意見があった。 ・ 構成員のコネクションに基づく具体的な連携先と連携方針が記載されている点は評価できるが、提案された施策では、エリア全体の観光需要の成長を促すことには結びつかないのではないかと意見があった。 ・ 県外からの利用者にとって二次交通は重要な課題であり、これに問題意識を持つ点を高く評価した。
【B3】先進的かつ効率的な空港施設運用に関する事業・業務	【審査のポイント】 ・ 取組方針が明確で、それを具現する個別取組施策が具体的かつ体系的となっているか、また、それぞれの施策同士の相乗効果を期待できる提案となっているか、安全を確保しつつ、先進的な技術の活用により、効率的な空港運用や利用者の利便性向上、空港の価値向上に資する具体的な運用施策（設備投資施策を含む）が明確に示されているか、根拠が明確で、具体性があり、民間の創意工夫を活かした提案となっているか、をポイントとして審査した。 【審査の概要】 ・ 他空港での運用実績を有する先進的な技術を維持管理に導入し、脱属人化・省人化を図ろうとする提案内容の蓋然性を高く評価した。一方

	で、富山県の地域特性を踏まえた先進技術の活用がない、目新しさがない等の意見があった。 ・ 制限区域内の設備投資については、河川区域という特性上、実現可能性の観点から検討が不十分ではないかとの意見があった。 ・ 先進的な技術の活用により、維持管理業務の効率化だけではなく、データ収集と AI 分析による運用の効率化やエアポートセールスやマーケティングへの活用によってサービスの改善を指向している点は評価に値するが、データ活用がどのように地域活性化に結び付くのか、また、費用対効果が明確に示されていないとの意見があった。
C) 空港施設運用	
【C1】 空港施設等の運用に関する事業・業務	【審査のポイント】 ・ 富山空港を運営する上での空港施設等に係る全体的な運用方針（設備投資戦略を含む）が明確になっているか、要求水準を充足し、空港機能の安全性をより一層向上させるような運用方針（設備投資方針を含む）となっているか、本事業の収益が空港活性化のために投資される方針となっているか、をポイントとして審査した。 【審査の概要】 ・ 災害時のタイムラインの作成や環境に配慮した工事施工など、安全安心に配慮した運用であり、予防保全の考え方によって効果的な管理を行おうとする提案を高く評価した。 ・ また、空港運営における県内事業者の活用など、地域に根付いた施設運用を企図している点を高く評価した。 ・ 安全性について要求水準以上の質を担保することを前提として、利用者満足度向上のための先導的な投資によって利用者と収益の増加につなげ、その収益を他の施策の運営費用に充当するなど、収益を再投資する提案は評価に値するが、提案内容に具体性がないとの意見があった。 ・ 河川管理に関する運用方針について具体的に言及されておらず実際の運用時においては不安であること、補強や維持のための設備投資がメインとなっており機能向上を企図した提案が見られない、との意見があった。
【C2】 安全・保安の確保に関する事業・業務	【審査のポイント】 ・ 富山空港の安全・保安に関連する業務について、信頼性の高い実施体制の構築が期待でき、安全・保安の確保に係る基本的な方針が明確になっているか、富山空港の地理的特性を踏まえた空港の安全・保安を

	維持・向上することが可能な施策となっているか、安全・保安に関するセルフチェック機能の実効性が期待できる施策及び体制が提案されているか、安全・保安に関連する業務について、職員への適切な教育・訓練の実施や適切な外部委託先の選定等を通じた信頼性の高い実施体制が示されているか、事件若しくは事故の発生を未然に防ぎ、災害発生時の被害を最小限にとどめる事前の施策が示されているか、トラブル発生時における適切な対応が期待できる提案となっているか、をポイントとして審査した。 【審査の概要】 ・意思決定の迅速化やオペレーションの効率化に資する提案や、客観的・中立的な第三者による外部モニタリングのプロセスを組み込み、セルフモニタリングの実効性が確保された提案を高く評価した。 ・また、SPCの安全管理体制・責任者が明確に示され、実際のトラブル事案を基に、具体的な初期対応案や復旧対応案などが示されている点を高く評価した。 ・一方で、河川法に基づく洪水対策等、富山空港の特性を踏まえた提案が見られないとの意見があった。
D) 行政とのパートナーシップ	
【D1】行政とのパートナーシップに関する提案	【審査のポイント】 ・B) 優先交渉権者が提案する事業・業務及びC) 空港施設運用の各提案項目において、県と運営権者が連携し、相乗効果を生み出す業務実施体制となっているか、本項目で提案される方針と、各提案項目における方針及び取組施策が整合しているか、具体性があり、効果的な提案となっているか、をポイントとして審査した。 【審査の概要】 ・混合型コンセッションの特徴を踏まえた「官」と「民」の役割を意識した提案であり、県のパートナーとして事業を運営していくことにコミットしている点を高く評価した。 ・効果的な利用促進に係る政策立案の後押しや官民パートナーシップなどにより、行政の課題を民で補完する提案となっており、シンプルな連携体制で両者のコミュニケーションが取りやすく、課題解決にスピード感を持った対応や相乗効果の発揮が期待でき、かつ目的と手法が合致している点を高く評価した。一方で、手法の具体性がやや欠けているとの意見があった。

	・連携する施策や関係者が明確化されており、幅広、かつ、具体性がある点は評価に値するが、連携体制が複雑・大掛かりで実態として機能するのか疑問が残るとの意見があった。 ・空港コンセッションの制度的特徴によるメリットを活かした提案が十分ではなく、実際の運営においては、これを活かした対応を期待したいとの意見があった。
E) 事業計画	
【E1】事業実施体制に関する提案	【審査のポイント】 ・業務実施体制が本事業の円滑な推進に資するものとなっているか、コンソーシアム構成員の役割分担が明確に示され、各構成員の知見や技術を提案できる体制となっているか、SPC の意思決定のプロセスが明確に示されており、ガバナンスの確保と意思決定の迅速化について配慮したものとなっているか、要求水準の充足及び提案事項の履行を確認するための実効性の高いセルフモニタリング方法が提案されているか、ビル施設等事業者の従業員及び県の職員に対する取扱いは、それぞれ従前の雇用条件に配慮した適切な提案となっているか、派遣を要望する県の職員の職種、人数及び派遣期間と技能承継のための施策は整合がとれたものとなっているか、をポイントとして審査した。 【審査の概要】 ・本事業の目的や富山空港の現状を十分理解している者を役員体制に組み込み、本事業への長期的なコミットを明示しており、取組方針に沿った本事業の円滑な推進が期待でき、体制に一体感・信頼感がある提案を高く評価した。また、職員の待遇改善や地元雇用の促進による人材確保・育成に積極的で、地域とともに歩むスタンスが明確である点を高く評価した。一方で、空港運営の中心となると見られる役員が事業期間を通じて富山空港の運営に継続的に関与するかについては留意が必要、との意見があった。 ・提案事項の履行に向けた実効性を確保するためのガバナンスを工夫した提案について評価に値するものの、構成企業の役割が分割され過ぎていることで臨機応変な対応が可能なのか疑問である等の意見があった。そのため、富山空港の規模を踏まえた迅速な意思決定が可能な体制であり、円滑な事業運営が期待できる提案をより高く評価した。 ・モニタリングについては、マネジメントレベルと株主レベルが同一当事者であることに関し、セルフモニタリングの実効性に疑義があり、

	かつ金融機関のモニタリング機能の有効性も不明確であるとの意見があった。
【E2】事業計画及び事業継続に関する提案	【審査のポイント】 ・現実的かつ合理的な計画となっているか、各提案項目と整合する計画となっているか、SPC の経営に過度な影響を与える可能性のあるリスク事象を顕在化させないためのリスク管理策について、具体的かつ効果的な提案となっているか、当該リスク事象の顕在化時において取られる事業継続のための施策について、具体的かつ効果的な提案となっているか、事業計画と整合する資金調達の方法となっているか、をポイントとして審査した。 【審査の概要】 ・事業計画が現実的かつ合理的で他の提案項目と整合しており、財務面が安定している提案や、旅客数が伸び悩んだ場合のストレスケースにおける財務状況を適切に想定している提案を高く評価した。 ・リスク管理策については、事象ごとのリスク管理を想定している点、任意の保険付保によるリスク発生時の影響を低減している点、及びリスク事象発生時に代表企業が人的・資本的に全面バックアップするとしている点を高く評価した。
F) 県の負担額	
【F1】県の「運営に係る費用負担」に関する提案	【審査のポイント】 ・県の「運営に係る費用負担」総額がより軽減される提案となっているか、をポイントとして審査した。 【審査の概要】 ・両応募者ともに、事業期間を通じて県が設定した総額 34 億円に対して△1 億円である 33 億円の提案があり、総額より軽減される提案であった。

審査委員会が決定した提案審査参加者の得点案は、以下のとおりである。

提案項目	応募者①	応募者②
A)全体事業方針		
【A1】 将来イメージ及び戦略的事業方針	15.0	14.8
B) 優先交渉権者が提案する事業・業務		
【B1】 利用者数の増加に関する事業・業務	22.8	19.5
【B2】 他団体・企業と連携した地域経済活性化に関する事業・業務	21.8	20.5
【B3】 先進的かつ効率的な空港施設運用に関する事業・業務	21.3	21.8
C) 空港施設運用		
【C1】 空港施設等の運用に関する事業・業務	15.8	15.5
【C2】 安全・保安の確保に関する事業・業務		
D) 行政とのパートナーシップ		
【D1】 行政とのパートナーシップに関する提案	23.3	19.3
E) 事業計画		
【E1】 事業実施体制に関する提案	10.8	9.8
【E2】 事業計画及び事業継続に関する提案	10.8	10.0
F) 県の負担額		
【F1】 県の「運営に係る費用負担」に関する提案	10.0	10.0
合計	151.3	141.0

※提案項目ごとに小数点第2位を四捨五入し記載しているため、合計点と一致しない場合があるが、得点案の合計には影響しない。

3 議事の経緯

優先交渉権者選定までの主な経緯は、以下のとおりである。

実施方針の公表	令和7年1月24日
特定事業の選定及び公表	令和7年2月10日
募集要項等の公表	令和7年2月10日
資格審査書類の提出期限	令和7年3月10日
資格審査結果の通知	令和7年3月14日
競争的対話等に関する説明会	令和7年3月17日
競争的対話等の終了宣言	令和7年6月3日
提案審査書類の提出期限	令和7年6月6日
優先交渉権者の選定	令和7年7月22日
優先交渉権者の公表	令和7年8月22日

< 審査委員会の開催経緯 >

第 1 回審査委員会	令和 7 年 2 月 5 日
第 2 回審査委員会	令和 7 年 6 月 23 日
第 3 回審査委員会	令和 7 年 7 月 9 日
第 4 回審査委員会	令和 7 年 7 月 16 日

第 1 回 富山空港優先交渉権者選定に係る審査委員会 議事概要

開催日時：令和 7 年 2 月 5 日（水）14:00～15:30

開催場所：富山県議会議事堂内会議室

議 題：（１）富山空港優先交渉権者選定に係る審査委員会の概要等について
（２）富山空港特定運営事業等募集要項等について
（３）富山空港特定運営事業等優先交渉権者選定基準等について

議事内容

（１）富山空港優先交渉権者選定に係る審査委員会の概要等について

委員会の設置、委員の紹介、委員長を選出等を行い、審査の手順やスケジュールなど、審査委員会の概要について事務局から説明した。

（２）富山空港特定運営事業等募集要項等について

富山空港の概要や募集要項（案）について事務局から説明した。

事務局からの説明後、審査委員からの質問を受けて以下のとおり事務局から回答のうえ、認識を共有した。

- ・ 近隣の他空港との関係や新幹線との競合について、隣県空港では両県民が相互に利用しているケースや、新幹線も含めた競合関係でもあり、補完関係でもあると考えている。
- ・ 国内線定期路線の拡大について、既存路線と競合する提案については評価において検討が必要だが、現在、運航していない路線を既存の運航会社以外で誘致する提案があれば前向きに評価したいと考えている。
- ・ 航空貨物取扱量について、ピーク時は、北陸新幹線開業前であったことから大型機材での運航、かつ、1 日あたりの運航便数が多かったため、機材の小型化や運航便数の減少を考慮いただいて評価してもらいたい。
- ・ 県負担金の上限額算定に物価上昇を考慮しているかについて、更新投資負担金については、県が作成した 10 年間の更新投資計画に昨今の物価上昇を踏まえて一定の係数を乗じた負担金額を上限として設定している。運営費用負担金については、既存の収支状況等を踏まえ、県として財政負担が可能であり、かつ特定事業として成立し得る範囲で金額を設定しており、また、オプション延長を行使した場合において、将来的にその時点での物価上昇を踏まえた対応策としている。

（３）富山空港特定運営事業等優先交渉権者選定基準等について

優先交渉権者選定基準（案）について事務局から説明した。

事務局からの説明後、最終的な評価の方法や得点案の計算方法、評価の基準、基準点に関する質問があり、事務局から回答のうえ、認識を共有した。

以上

第2回 富山空港優先交渉権者選定に係る審査委員会 議事概要

開催日時：令和7年6月23日（月）13:30～16:30

開催場所：富山県庁内会議室

議 題：（１）提案審査書類に係る提案事項の整理結果について
（２）提案審査書類についての意見交換等

議事内容

（１）提案審査書類に係る提案事項の整理結果について

提案審査書類参加者から提出があった提案審査書類の概要について、事務局から説明した。

（２）提案審査書類についての意見交換等

今回のプレゼンテーションにおいて効果的な質問を行う観点から、提案内容に関する疑問等について、以下のような議論を行った。

【A1】将来イメージ及び戦略的事業方針

- ・ 両コンソーシアムともに関係人口やウェルビーイングなど県の方針を踏まえたものであり、大概念のビジョンは似通っている印象を受けた。10年後のビジョン実現のための戦略の細かさやデザイン、ビジョンを実現するための具体性に両コンソーシアムの違いが表れている。
- ・ 地元企業とどのようにマッチングするのか。地域をどのように活性化させ、それがどのように空港活性化につながるのか、道筋が見えず、疑問に感じる。
- ・ 官は思い切った方向に事業を進めることが難しいとあるが、官が費用負担する以上、一定の影響力が及ぶため思い切った方向に進む点に限界がないのか確認したい。
- ・ 県が施策に関わることは重要だが、県が積極的な関与となると民間が事業を実施する意義が薄れると思うため、積極的な関与の意味を確認したい。
- ・ 総じて本事業では官と民の協調が重要と思うが、県に依存しすぎると運営権者の役割が薄れるためどのような距離感で事業を進めるのか確認をしたい。

【B1】利用者数の増加に関する事業・業務

- ・ ビジネスジェット誘致とあるが、どのような考えで誘致し利用者が増加するのかわからない部分があった。
- ・ 非旅客の誘客について、数年後にビル施設の改装が完了する計画であり、運営権を

設定してからどのように取り組むのかわからない部分があった。

- ・ 国際線誘致について、富山県の実状をよく調べている印象を受けた。ビジネス客が重要で県内企業が相当数、ベトナムに進出しており、県内業界団体からも期待値として高いと感じている一方で、路線就航の確度が高いのか気になった。
- ・ ビジネス客を羽田便で増やすのは難しいと感じており、富山にとっても大きいアジアのマーケットで増やす意義は大きい。関西便もこれから国際事業に取り組む企業にとってはよい話であり、直行便ではなくても国際ハブ空港との便数が多いのは利用客数増に向けて重要と感じる。
- ・ 富山県は人口が減る中で関係人口を増やすことが重要。マーケットサイズの大きいところにいかにアクセスできる提案であるかが重要と感じた。
- ・ 便数の現状維持が、富山県が求めているものと一致しているのか疑問に感じた。
- ・ 現状でも羽田便の座席は埋まっている印象があり、羽田便の底上げといっても何をするのか疑問に感じた。
- ・ 相乗効果とあるが、県の取組みを補充するという記載であり、事業の考え方としてそのようなものを県が求めているのか疑問に感じた。
- ・ 非航空系収入が10年間で大きく伸びているがその根拠が不明なので確認したい。非旅客増の具体的な取組みを考えているのはわかるが、ここまで伸びるのかわからない部分があった。
- ・ 非旅客をいかに呼び込むかは、賑わいの一つの方法であり、必ずしも路線＝旅客が連動しなくてもよいと思う。
- ・ 国内線・国際線ともに路線拡充に消極的だが外的環境から新規路線拡充が難しいと感じるのか別の理由があるのか確認したい。
- ・ データ分析結果に基づく訴求力の高いエアポートセールスとあるが、具体的な説明、実績及び成功例を確認したい。
- ・ 路線拡充には積極的な印象であるが、これまでの県の努力もあって現状の路線であるので、そのような状況を改善可能だと、どの程度考えているのか確認したい。
- ・ 旅客のジャンルについて富山便の旅客数を増やすとなると新幹線との競合を考える必要があるが、提案に出てこないことに違和感がある。

【B2】他団体・企業と連携した地域経済活性化に関する事業・業務

- ・ 富山における地域活性化について、各事業者の考えを具体的に知りたい。
- ・ 各種取組方針があるが、人的・コスト面で可能なのか、持続的な対応が必要と考えるがその姿勢があるのか確認したい。
- ・ 地域連携DMOの設立とあるが既存団体との関係性を確認したい。

【B3】先進的かつ効率的な空港施設運用に関する事業・業務

- ・ DX 導入推進による労働環境改善や効率化として運営面の改善が挙げられているが、コスト削減にどの程度寄与するか考えを確認したい。
- ・ AI 活用とあるが具体的な活用事例を確認したい。

【C 1】空港施設等の運用に関する事業・業務

【C 2】安全・保安の確保に関する事業・業務

- ・ 安全性の維持・確保は肝となる部分であり、両コンソーシアムとも問題意識を有しており特段の違いはないと感じている。

【D 1】行政とのパートナーシップに関する提案

- ・ 提案のあったパートナーシップ体制は意気込みを感じるが重層的である。実現性の面で懸念を抱いた。
- ・ 行政とのパートナーシップについて県の補完とされていることに懸念を抱いた。パートナーシップの考えとして、ないところを補完するのかそれ以上の積極性があるのかは確認したい。
- ・ 県がやりたいことを支えるイメージの提案であり、民間に斬新なものを提案してもらいたい中で立場が違うように感じた。県のニーズを聞き、集約して望むものを行うように見えてしまい、それだと県のコンセッションをやりたい趣旨と一致するのかわからない部分があった。
- ・ 運営権者も県に対して説明責任もあるので入札制度の在り方に民間の強みを活かすことに限界がないか確認したい。
- ・ 民間が戦略立案にどのように関わるのか確認したい。
- ・ 各ワーキングの結びつけや様々な団体がいる中で SPC がどのようにリーダーシップを発揮するか確認したい。

【E 1】事業実施体制に関する提案

【E 2】事業計画及び事業継続に関する提案

- ・ 両コンソーシアムともに提案内容にほとんど差がないと感じるが、地元出身者の雇用について、人手不足の中で雇用確保に問題がないか確認したい。
- ・ コンセッションの目的に鑑み、経済波及効果などの想定を確認したい。
- ・ 10 年経過後の配当と県負担との関係について負担金が株主に還元されているように感じるため考えを聞きたい。

以上

第3回 富山空港優先交渉権者選定に係る審査委員会 議事概要

開催日時：令和7年7月9日（水）12:00～16:30

開催場所：富山国際会議場内会議室

議 題：（１）事前打合せ
（２）プレゼンテーション
（３）提案内容について意見交換
（４）採点方法

議事内容

（１）事前打合わせ

プレゼンテーション実施に係る概要について、事務局から説明したうえで、応募者への質問事項について調整した。

（２）プレゼンテーション

応募者からの希望に基づく順番により、各コンソーシアムによるプレゼンテーション・質疑応答を実施し、それぞれの提案内容についての理解を深めた。

13:00～ 応募者①

14:30～ 応募者②

（３）提案内容について意見交換

各応募者からのプレゼンテーションを受けて、以下のような意見交換を行った。

- ・ 航空・非航空利用者の積極的な誘致を目指しており、蓋然性は疑問だが、空港が変わる期待を感じた。
- ・ 空港運営ではなく、旅行会社として取り組んだとしても、応募者が掲げる目的は達成できるのではないかと疑問に感じた。
- ・ 事業期間を通じて、提案審査に携わった担当者が運営にコミットする点が経営の姿勢として大事だと感じた。次世代を巻き込んで地に足の着いた、本来の富山の人から愛される空港ができるのではないかと期待感を持てた。
- ・ 応募者の強みを活かした取組みを継続して実施してもらうことが地域活性化の一助になると感じた。
- ・ 提案内容のどの点が活性化なのか、よく分からない部分があった。
- ・ 提案審査書類の内容から実現可能かがわからない部分があったが、プレゼンテーションを聞いてもその印象は変わらなかった。

- ・ どちらの応募者の提案も一長一短である。
- ・ 事業計画に人件費の増加も織り込み、人材確保・育成の問題に真剣に向き合っている印象を受けた。
- ・ 利用者増の施策について、提案審査書類を見る限り専門性があると印象を受けていたが、プレゼンテーションを受けてコンソーシアム内にその分野の専門家がいなかったと感じた。専門性があれば簡単に利用者が増えないことがわかると思うが、説明を聞いて不安に感じた。
- ・ 行政パートナーシップに関する提案について、一方の応募者の提案は行政に責任を振ろうとしているようにも感じた。
- ・ 提案審査に携わった担当者が空港運営にコミットするという意気込みから、実際に空港とその周辺の活性化につながる期待感を持てた。
- ・ 事業実施にあたり多くの企業・団体から関心表明を集めている点について、意気込みは感じた。
- ・ 一方で、各施策の実施について、関係事業者等からの関心表明書が示されているが、具体的な内容がなく、協力が得られるのか不安に感じた。
- ・ 事業期間当初に多大な投資を行い、新規路線が開設できなかった場合の対応についてわからない部分があり、リスクに感じた。

(4) 採点方法

本公募における採点方法について、審査委員間で改めて確認した。

以上

第4回 富山空港優先交渉権者選定に係る審査委員会 議事概要

開催日時：令和7年7月16日（水）13:30～15:30

開催場所：富山県庁内会議室

議 題：（１）採点・評価の際の留意事項の確認

（２）提案内容について意見交換

（３）採点

（４）審査の取扱い

議事内容

（１）採点・評価の際の留意事項の確認

各コンソーシアムの提案内容について、プレゼンテーションの内容も踏まえたうえで、富山空港特定運営事業等優先交渉権者選定基準に基づき採点・評価いただきたい点、事務局から説明した。

（２）提案内容について意見交換

各委員で持ち寄った仮採点をもとに、以下のような意見交換を行った。

＜提案項目B）について＞

- ・ 中長期的にサステナブルな経営を実現するためには、空港に人流を持てくることができかが重要。一方の応募者は、設備投資を控えて人流を自ら作り出そうとしている点を評価した。地域資源を生かすため、地域のキープレイヤーとの接触を増やすことが重要であり、経営者がコミットする姿勢が全てだと感じた。他方、データ活用も人流が増えてN数がある程度必要だが、そうした中で提案書における取組みの根拠づけが弱いと感じた。
- ・ 利用者数・路線数を現状維持するのも大変な状況下で、一方の提案は現実的と受け取った。
- ・ 非旅客数の増加について、取組みの蓋然性に加えて効果が伴うのか、どちらの提案も疑問に感じた。
- ・ 蓋然性は疑問だが、二次交通に関する提案があったという点を評価したい。
- ・ 運営管理に先進的な技術を導入し効率化を図ろうとする姿勢が見られた。
- ・ データ取得・分析を営業面にも活用しようとしているが、風呂敷を広げようとしている印象を受けた。本空港においてどこまで適切かつ効果的かわからない部分があった。
- ・ 旅客について、新幹線との競合をどう考えるかが重要な論点と思っており、一方の

提案は、既存路線は維持するという方向でメリハリがあると感じた。現状を踏まえた分析をしているのできっちりやってくれると感じた。

- ・ 他方の提案は、新規路線に関してあまりにも風呂敷を広げすぎている印象を受けた。羽田空港でさえ成長可能性が限られる中で、関西など他方面の路線をどれだけ伸ばせるのか疑問に思った。国際線も新規路線の就航について、プレゼンの中で蓋然性を聞いても具体の説明がなく、信用できない印象を受けた。
- ・ 非旅客について、一方の提案は、地味だが実績のある取組みを提案していて納得感があった。他方の提案は、蓋然性は疑問だが、色々積極的に考えていて、空港における非旅客の増加は重要だと思う中で賛同できる部分もあった。
- ・ 二次交通について、バスターミナルの考え方には賛同する。新たな観光地を作るという観点も、少し言い過ぎな印象を受けたが、旅客が集まる空港で人流を捕まえようとするスタンスは評価できると感じた。
- ・ 地域の観光推進について、一方の提案はDMOとして取り組む想定になっており、他方の提案は旅行業免許を取って商品造成するとある。県内には複数の大手旅行会社があり、これら既存の旅行会社との関係もある中で、両コンソとも目標値に対する蓋然性はないと感じた。
- ・ 国内線は、新幹線と競合する前提になるが、新幹線の利便性を考えると、羽田線は現状の3便維持でも大変。その観点では、一方の提案は現実的で、他方の提案は課題があると感じた。国際線については、相手国側の事情もあり、頑張ったからといって伸びるものではなく、現実路線で頑張ってもらった方が空港の維持・発展に貢献できると感じている。
- ・ 旅客数に比して設備投資の規模が過大な印象であり、懐疑的な印象を受けた。
- ・ 旅客の流動を画像解析して診断するとあるが、データ活用してどうしたいのか、データの用途も含めて方向性をどうするのかわからない部分があった。滑走路の路面点検に用いる技術も、世間的には浸透しつつあるが、どこまで効果があるのか疑問に感じた。相対的に、現実的に考えている提案の方が妥当と考えた。
- ・ 非旅客の誘致というのは、空港にとってサンクコストが発生しかねないため、投資判断はかなり難しいと考える。最近では、どの空港を見ても過大な投資をすべきでないという方向性になっており、データ分析の投資について、費用対効果が明確になっていない印象を受けた。

<提案項目D) について>

- ・ 一方の提案は、現状からの変更要素がなく、路線誘致のトップセールスなどは引き続き県任せなので、運営権の設定により何をするのか、という提案がない。他方の提案は、色々取り組もうとしているが、スピード感も含めて実現性に懸念を抱いた。
- ・ 一方の提案は、仕組みとして重厚長大な印象を受けたが、実際にどのように動くの

かわからない部分があった。他方の提案は、シンプルだが、空港を使うインセンティブ付けが重要な中で、県と一緒に商品造成などやっていこうというスタンスが見えた。

- ・ 一方の提案は、現実的な体制である印象を受けた。他方の提案は、本空港の規模を考えると、出来るだけシンプルな体制の方がいいのではないかという印象を受けた。
- ・ 会議体を実際に機能させて回していけるのか、また、回すことに意味があるのか疑問に感じた。

<提案項目E) について>

- ・ 一方の提案は、トップダウンで迅速な業務執行が期待できる一方で、モニタリング実施者とマネジメントが一緒のため、実施体制に疑問を感じた。また、金融機関によるモニタリングの実効性についても疑問に思った。他方の提案は、デッドロックが生じないような機関設計の工夫は見られるが、分かりにくい部分があった。モニタリングはよく考えられている印象を受けた一方で、エアサイド職員の引継ぎの詳細や蓋然性、新規雇用の方針についてわからない部分があった。
- ・ 一方の提案は、リスクの洗い出しをただで事業計画の体をなしていないと感じた。借入金の返済方針についてわからない部分があった。他方の提案は、旅客数目標の蓋然性に疑問が残った。
- ・ 一方の提案は、小回りの利く経営は可能だがガバナンス体制に不安を感じた。他方の提案は、ガバナンスは万全だが、そこまでのリスクがあるのか、ガバナンスを細かく利かせる必要があるのか疑問に思った。
- ・ 一方の提案は、親会社から結果を求められた際に、親会社からのプレッシャーが経営陣に降りかからないか懸念を抱いた。
- ・ 一方の提案は、「自分たちがやる」というメッセージが明確な印象を受けた。他方の提案は、構成員が多過ぎて具体的に誰がやるのかという部分がイメージできず懸念を抱いた。事業期間中、親会社の人事異動に巻き込まれると困るという印象を受けた。
- ・ 目標利用者数が達成できなかった場合、雇用も投資も上手くやっていけるのかという点に不安を感じた。

<その他の提案項目について>

- ・ 本空港の駐車場は普段から混雑しており、その中で非旅客を呼び込む場合、駐車場の容量をどうするかという点に懸念を抱いた。
- ・ 提案項目A) について、一方の提案は目標値の記載があり、明確な印象を受けたが、県が掲げる本事業の目的に沿うかという点が重要であり、評価に差は付けなかった。
- ・ 一方の提案は、新幹線との差別化・補完という観点が記載されている点が適切だと

感じた。他方の提案は、各コンセプトが空港運営にどれだけ貢献するのかが分からない部分があり、地に足のついた仕事をしてくれるのか不安な印象を受けた。

- ・ 提案項目C)の提案について、両コンソーシアムとも疑問が残る部分があった。一方の提案で太陽光発電パネルに関するものがあったが河川法との関係で蓋然性に疑問を感じた。

(3) 採点

各審査委員において採点のうえ、県にて富山空港特定運営事業等優先交渉権者選定基準に基づき集計し、機械的に得点案を作成したうえで、審査委員会の承認を受けた。

(4) 審査の取扱い

委員には、将来にわたって守秘義務が課されること等、事務局から説明した。

以上